



# 広

## 創立134周年

# い

# 心



### 学校便り 23号

令和2年 12月10日  
宮古島市立 狩俣小学校  
発行者：校長 松原 伸一

## 12月10日は、世界人権デー(世界人権の日)

12月2日(水)の朝会では保健委員会による発表がありました。12月1日が世界エイズデーということで、エイズについての理解を深め、正しい知識を身につけ差別・偏見をなくして互いを思いやる気持ちを育てていく取組を行っています。

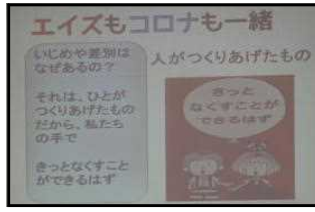
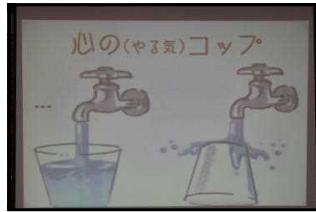
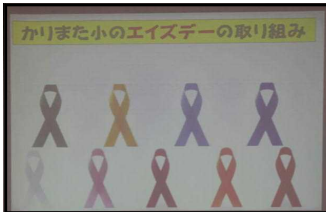
保健委員会の発表では、「エイズってどんな病気なのか」「エイズで苦しんでいる人たちのこと」「私たちにできることは」などについてみんなで考えました。その中で、「人権」ってどういうことなのか改めて考える機会となりました。

人権とは、人間が生まれながらにして持っている権利のことです。

- ①自分の命も他の人の命も大切にします。
- ②人を思いやる気持ちを大切にします。
- ③自分がされてイヤなことは人にしちゃだめ。

エイズデー、人権の取り組みとして、レッドリボンを1日着用して、帰るときに児童玄関にある『思いやりツリー』に貼り付けていきました。また、ハート型の「思いやりカード」にクラスの友達のいいところ・感謝しているところを記入して、思いやりツリーの周りに貼り付けています。

一人一人の思いやりの気持ちが大きくふくらんで、世界中のみんなが幸せになりますように！！



お話の中には、養護教諭の大城麻希先生の甥のけんしんくんのお話もありました。生まれてきたときに産声が上がらず、心拍停止状態だったそうです。お医者さんがすぐに心臓マッサージを行い、なんとか心臓が動き出しました。ですが、お父さん、お母さんはとても心配で心配でたまらない。けんしんくんの体の状態が安定してくるまで麻希先生もとても心配で、毎日毎日、宮古神社に通ってお祈りをしたそうです。病院の先生方、ご両親、ご家族の大きな愛と支えによって現在、けんしんくんは6か月元気にすくすく育っています。

**「生まれてくるというのは、当たり前ではなく、とてもありがたいことなんだよ。そして、お父さん、お母さん、家族のみんなが大切に思ってくれる。そんな自分の命、一人一人の命を、大切にしていましょね。」**

とても大切なメッセージが込められた保健委員会の発表でした。ありがとうございました。

## 生まれてきてくれて「ありがとう」 誕生学:「いのちの授業」

12月9日(水)の1校時に、誕生学アドバイザーの西平みゆき先生、助産師の知念菜穂子先生を講師に「命の授業」が行われました。全児童と保護者、池間小学校の児童も参加して、わたしたちの「いのち」について学びました。

「赤ちゃんはお腹の中にいるときに耳が聞こえると思いますか。」「命の道」と呼ばれる産道は狭いので、赤ちゃんはいろんな工夫をして外に出ようとするんだよ。」「お母さんのお腹の中に宿ったときの大きさは、針先ぐらいの本当に小さな小さなものだよ。それが、少しずつ少しずつお母さんのお腹の中で成長していく。あなたたちもそうやって今ここに居るんだよ。」



誕生学の後には、5、6年生を対象に「二次性徴」のお話をさせていただきました。思春期は心も体も成長期で自分の周りとの差にすごく不安を感じる時期であるということ。思春期に入ったということは、『自分らしさ』が出てきたということ。いろんな感情があって苦しいときがあるけれど、誰かに相談することで心が少し軽くなるということ。今、そしてこれからの私たちに、とても大切なことを教えていただきました。

※詳しくは、本日記布の『池間狩俣小合同誕生学講演会のふりかえり』をご覧ください。

**西平みゆき先生、知念菜穂子先生、どうもありがとうございました。**

